

伊丹氏の 落ち武者の里 「大阪府交野・傍示」 を訪ねて

郷土史研究家 金 鴻根



快慶作の仏像がある八葉蓮華寺



谷間に点在する傍示地区の民家



山あいにある傍示の里に立つ金さん

なお、戦国時代、摂津地方まで勢力をのばしていた阿波・三好三人衆の本拠の一部である徳島・池田にも伊丹と森本姓が多い地区がある。伊丹氏の一族がこの三好三人衆と手を組んだり、敵に回ったりしていることから、家臣同士が仲良くなり池田に移住したのではないが、ともいわれている。

阿波・池田にも多くの伊丹姓存在

そして伊丹城に入り、摂津一国の名となるとともに、伊丹の町々を取り込んだ強固な総構えの城を完成させ「はなはだ壮大で見事な城」といわれた有岡城を築きあげた。

く、下のものが上のものを差し置いて力を振るう下克上の時代。今日、味方になったと思ったら明日は敵方にまわることもあるなど混乱に混乱を重ねていた。

こうしたとき池田家の家臣だった荒木村重は、元亀元年（1570）池田家の内紛に乗じて池田勝正を追放、白井河原の合戦などがあつた後の天正2年（1574）には伊丹城を攻めて伊丹氏を降伏させる。

傍示地区の言い伝えによると、今から430年ほど前の天正元年（1573）7月に、第15代將軍足利義昭が織田信長に反抗して京都・二条城から逃げだし、宇治・横島城に立てこもった。このとき摂津の武将だった伊丹氏、池田氏らの一族は義昭側につくが、義昭が豊臣秀吉、明智光秀、柴田勝家らの大軍に包囲され降伏、室町幕府は消滅する。

430年前 伊丹氏の一族が戦国の戦いで追われる？

傍示地区の言い伝えによると、今から430年ほど前の天正元年（1573）7月に、第15代將軍足利義昭が織田信長に反抗して京都・二条城から逃げだし、宇治・横島城に立てこもった。このとき摂津の武将だった伊丹氏、池田氏らの一族は義昭側につくが、義昭が豊臣秀吉、明智光秀、柴田勝家らの大軍に包囲され降伏、室町幕府は消滅する。

平成19年5月、伊丹城主だった伊丹氏一族の落ち武者の里といわれている大阪府交野市傍示を20数年ぶりに訪れた。傍示地区は交野市と奈良・生駒市との境にある生駒・竜王山の北の山深い山頂にある農村。かつて約30戸以上あり、ほとんどが伊丹姓だったが、時代が進むに連れ「生活が不便」ということなどから順に減り、現在は5戸で、うち4戸が伊丹姓。

敗者となった伊丹や池田氏一族の残党20は、淀川を舟で下って高槻の芥川へ逃れる。この付近は高槻城の和田惟政の勢力圏。しかし当時、池田氏に属していた荒木村重らが和田氏を攻めて討ち取る。そこで伊丹の残党は淀川を渡り交野の町に潜伏したが、信長の勢力が及んできたので竜王山を通り傍示の山に逃げ込んで住み着いたという。

將軍義昭が横島城に立てこもったとき、伊丹氏一族は義昭側に加わり戦っている。このとき荒木村重は信長側に立ち、戦功があつたとして信長から摂津の守護に任命され、伊丹（有岡）城主になっている。

さらに村重は元亀2年（1571）に、茨木の白井河原で高槻城主の和田惟政と戦い、和田氏を滅ぼしているが、伊丹氏は和田方について戦ったという説もある。この戦いは横島の合戦の2年前のできごとなので、傍示地区に残る言い伝えは、歴史話が混合して、ごっちゃになっている。だが私は「この地区の伊丹氏は、この2つの戦いのいずれか、もしくは、この2つの戦いで落ち武者である」と考えている。

当時は下克上の時代 今日友は明日の敵

このころは武士団の勢力争いが激し